



414
A 102



左に掲ぐる所ノ日本政務要華論ハエツチ氏カ
 本月一日太平洋郵船ノ發便ニ英米協アムステルダム合
 新聞社書送スル所ノ係ニ柳英米新聞協会
 社ハ西海屈指ノ大新聞社也其通信
 者ヲ宇内各地ニ設ケ電信ニテ紐約電動
 ノ主事者ニ送達之ヨリ即時ニ又テ電信ヲ
 以テ社員各千餘ノ各新聞社ニ配達シ各社同日
 發刊スルノ約ナリト云フ
 エツチ氏今ヨリ在テ該社ノ通信者タルニ當

天正十一年四月
 癸酉
 郵寄
 附月

4225



國ハ極外遠隔ノ地ニ在ッテ電信ノ費用巨大ナルヲ以テ非常ノ珍事ニ非サルヨリハ電信ニ用ヒテ周テ郵船出帆ノ便毎ト書送ニ比テ書送スル所米國桑方港ニ達スルハ該地ヨリ直テ電信ニテ紐約府ニ達シ尙ホ同府ヨリ電動府ニ達シニララ出テス英米千有餘社新聞紙揚載セラレテ其所論ヲ宇内億万人民ニテ通覽セシムラ得ルト云フ

大正十一年四月
 陸軍省
 陸軍省
 陸軍省

日本形勢論

千八百八十年四月
 キン号ヲ以テ郵送
 日汽船「シチー」ヲフ、ペ
 ル号ニ係ル

輒近日本政府ノ官吏ノ分任ニ付テハ尙ホ更ニ辨明スベキ者アリ蓋シ千八百六十八年王政復古ノ時ニ當テハ新政黨ニ関スル上等ノ政治家ノ數ニ限リアリテタシ議ト稱スル内閣參政ノ諸員モ亦其レカ為メニ諸省ノ長官ノ次職ヲ奉スルヲアリシガ爾來後進者ニ諸省ヲ分任シ參議ヲシテ一ニ參政ノ職ヲ奉セシムルノ外他ノ任ヲ負ハシメザラントスルノ計畫ヲ為スト多年ナルモ種々ノ事情ニ障ヘニレ漸ク去ル二月ニ至テ此事ヲ行フニ至リシナリ今ヤ參議ハ三名ノ人ヲ除クノ外專ラ國事ノ樞密ニ其身ヲ委ヌル事トハ為リタレ氏而モ場合ニ於テハ又從前擔任セシ各省ノ事務ヲモ看察注意スル事ナキニ就中前大藏卿タル大隈君ノ如

山前三氏トアリ

キ前内務卿タル伊藤、如キ前陸海軍卿タル西郷河
村二君、如キハ最モ此事ニ預カル人々トス其上ニ云
フ特別ノ二氏トハ井上黒田ノ両君ニシテ尚ホ従前ノ
如ク一ハ外務卿ヲ兼子一ハ開拓使ヲ擔任セラルレ氏
其井上君ノ外務ヲ兼勤ナラシメ、ハ目下外交商議ノ行
ハル、者アリテ其局ヲ終ルマデハ氏ノ職ヲ止ムルヲ
得ズ又黒田氏ノ前職ヲ奉セラル、ハ後米開拓使ヲ發
スルニ付テ其後任ヲ置クヲ要セサルガ故ナリサレバ
政府ノ政畧ハ依然トシテ毫モ前キニ變ル事ナク夫ノ
僅々士族輩ノ團結セシ教唆者ノ此機ニ乘シ 天皇陛
下ニハ親シク國會開設ヲ望マセ給フ旨ヲ仰出サレタ
リト揚言シ大急進ノ改革ヲ行フノ報ヲ傳フル者アレ
氏是レ全ク無實ノ造言タルニ卜ナラズ蓋シ 天皇陛

下及ヒ其諸宰臣、嘗テ勅諭ヲ以テ誓ハセ給ヒタル漸
次立憲政略ヲ興スノ法ニ黽勉從事セラル、ト魚モ教
育ノ道普子ク行ハレ經驗ノ實大ニ舉ルニ至ルマデハ
決シテ未タ民撰議院ヲ公許スルノ冀圖ヲ起サル、ト
ナシ故ニ先ツ國內至ル所ニ學校ノ設ケヲ盛ニシ又各
府縣ニ公撰ノ民會ヲ起コシ以テ人民ヲシテ國會ノ方
法ニ習熟スルノ機ヲ得、シメント勉メラルレ氏未タ
數年ノ中ニシテ容易ニ代議政略ヲ起コスベクモアラ
ズ若シ徒ラニ之ヲ試ミントセバ返テ世ノ擾亂ヲ招ク
ニ至ルベキハ社會ニ有識者、明カニ考察スル所ナリ
必竟此ノ如キ急進ヲ要望スル者ハ其標目トスル所ノ
事件ニ絶ヘテ關係ナキ無賴ノ徒ヨリ出ルノミニシテ
慢リニ檄文ヲ四方ニ傳ヘ其主唱者ソ不平ヲ吐露シ愚

民ヲ煽動スルガ如キ行ヒアルヨリ政府モ亦已ムヲ得
ス新タニ預防ノ令ヲ印刷者及ヒ發行者ニ布キ以テ及
對ノ處置ヲ施スニ至リ而シテ又同時ニ學校ノ制ヲ簡
便ニシ人民參政ノ氣力ヲ發達セシムルノ方法ヲモ定
メラル、ナリ抑内閣ニ於テ此問題ヲ評議セラル、ヤ
曩キニ千八百七十九年八月申ダラント君ノ 天皇陛
下ニ會見アリシ時ニ際シ國會制定ハ政府ノ勉メテ行
フベキ要件タルヲ疑ナケレ氏之ヲ開カントスル先ツ
急劇ノ所為ヲ慎マル、ヲ要ス若シ一タビ太早計處
置ヲ施サレンニハ再ヒ之ヲ恢復スル能ハサルベシト
ノ演說アリシヨリ深ク之ヲ信憑シ常ニ其意ノ在ル所
ヲ以テ事ヲ處セラル、如シ